

令和7年度第1回蓮田市いじめ問題対策連絡協議会 会議録

日時 令和7年11月28日(金)

午後1時30分～3時30分

場所 蓮田市役所303～305会議室

〈出席委員〉

加藤 繁会長、関根雅江委員、岩崎 淳委員、鈴木菜美委員、林 義浩委員、小見雅行委員、
円入隆行委員、田口善雅委員、中田泰広委員、吉川 彦委員、遠藤義尚委員、小林弘幸委員、
吉角智照委員

〈事務局〉

西山通夫教育長、安田修一学校教育部長、中尾信太郎学校教育課長、中村実孝学校教育課指導主事

1 委嘱（新規の委員へ）

2 あいさつ 加藤 繁 会長

3 自己紹介

4 会議の公開について

蓮田市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、原則、公開する。

5 議事

会 長 本日は、14名中13名の出席となります。蓮田市いじめ問題対策連絡協議会設置条例第6条第3項で規定する過半数に達しているため、本日の会議は成立となります。

(1) 令和6年度第1回会議議事録について

- ・説明…事務局 中村実孝 学校教育課指導主事

(2) 蓮田市いじめ問題対策連絡協議会設置の趣旨について

- ・説明…事務局 中尾信太郎 学校教育課長

(3) 蓮田市いじめ防止基本方針及びその改定の概要について

- ・説明…事務局 中尾信太郎 学校教育課長

(4) 本市のいじめ問題の状況や対応について

- ・説明…事務局 中村実孝 学校教育課指導主事
- ・質問…蓮田市 PTA 連絡協議会会長 小見委員

「いじめの件数は増加傾向にあるということだが、児童からの報告が多いのか、先生

方が気づかれて何か手助けをすることが多いのか、どちらのケースが多いのかデータなどあれば教えてほしい。」

・回答…事務局

「分類が難しくデータ等にはないが、児童からの訴えは多くある。また、各学校でアンケートを月1回あるいは学期に数回行っている。そこから、気づき対応しているケースも多くある。」

(5) 情報交換

①埼玉県中央児童相談所 鈴木 担当課長から

- ・令和6年度虐待件数は前年度より減少したが、依然として多い。子ども支援課と連携しながら対応している。性的虐待についても数件ある。子どもからの訴えがあった場合、児童相談所へ連絡してほしい。

②埼玉県岩槻警察署 林 生活安全課長から

- ・児童生徒の相談は何件かあるが、いじめのくくりではない。少年の万引きの事件があり、遊び感覚などところがある。また、精神的な不安定さから遠くに行ってしまった子どももいた。何か兆候が見られる場合は警察へ連絡してほしい。

③蓮田市小中学校長会副会長（小学校） 中田校長から

- ・年度当初に、教職員に対しいじめ防止基本方針を確認し、指導している。具体的には①いじめ防止の取組、②早期発見・早期対応、③組織的対応、④再発防止についてである。
- ・人権擁護委員と連携し、「言葉の大切さ」について何回も繰り返し指導をしている。

④蓮田市小中学校長会副会長（中学校） 吉川校長から

- ・ほとんどの生徒はスマートフォンを持っているので、SNSによるトラブルが多い。これをしたらどうなってしまうかなど、想像力に欠けている。
- ・毎週生徒指導部会、教育相談部会を開き、情報共有し組織的な対応を行っている。また、教師と生徒間で「やり取り帳」を活用しており、生徒の心配事や悩みなど把握するために活用している。
- ・教師の言葉遣いや指導方法について気をつけるようにしている。

⑤蓮田市PTA連絡協議会 小見会長から

- ・各学校のPTA会長から重大な問題はないと聞いている。過去に重大事態となった件では当時の教員の対応が悪いと記事に書かれていた。PTAとしては、過去の事案においてもクリアになった状態で報告していただくとありがたい。
- ・企業ではコンプライアンス（パワハラ、セクハラ）研修を行っている。教育の中でも取り組み、先生同士、子ども同士で考えてもらうこともよいと思う。
- ・いじめを受けた際にどういう対応や手段をしたらよいか（相談窓口やアンケート記入など）を、もっと子どもたちに伝えてほしい。

⑥蓮田市人権擁護委員 関根 委員から

- ・蓮田市人権擁護委員会では、人権意識を高める活動を行っている。「人権教室」、「人権集会」などを行っている。今年度は黒浜南小学校で人権朝会を行い、その後授業にも参加させていただいた。
- ・SOS ミニレターや電話相談など悩みなどを伝える方法があることを子どもたちに周知してほしい。
- ・「種をまこう」という冊子を配布したので図書室など子どもたちが手に取れる場所に置いてほしい。また、「同意って何」という本もあるので、先生方にも読んでほしい。
- ・人権作文などを書くことで、自分の人権感覚を振り返るよい機会になる。

(6) 講演 埼玉県教育局市町村支援部生徒指導課指導主事 菅原 甚一 様から

①演題：「生徒指導上の諸課題について」

②情報提供

- ・生徒指導は一人ではできない。関係機関や地域の方々と連携体制をとり、チーム支援で未然防止、早期発見、早期対応を行っていくことが大切である。
- ・暴力行為件数過去最多となった要因として、教育相談の充実や児童生徒への丁寧な見取りができるようになったことがある。一方で、感情のコントロールが苦手な子どもやストレスの解消法がわからない子どももいる。また、教師の指導不足に起因すると考えられるケースもある。
- ・いじめの認知件数過去最多となった要因として、学校が法にのっとり積極的な認知を行ったこと、アンケートや教育相談の充実などがある。
- ・いじめの対応は一人(担任)が抱え込むのではなく、組織(学校)で対応するものである。
- ・不登校児童生徒数の増加率は、前年度と比較して低下し、特に中学校の増加率は小さかった。
- ・不登校の新規数では、中学1年生が最も多い。
- ・自殺者数は令和6年度過去最多だった。進路や学業など様々な悩みがあり、原因の特定は難しい。

(7) その他

- ・次回のいじめ問題対策連絡協議会の開催について 令和8年11月実施予定